



〒965-0871
会津若松市栄町2-14
レオクラブガーデンスクエア5F
☎(0242)93-7950 ■FAX(0242)85-6863
■E-mail info@terakoyahoujyousha.com



ります。「うつ」的症狀におちいり、通院する子どももいます。精神的なダメージを周りが与えることで親や社会の意向に添えない自分を否定すると、自己肯定感を取り戻すまでに、時間がかかります。不登校は、恐れる事ではありません。

「何かをさせる」のではなく
「そこにいることを大事にする」

不登校に限らず、子どもが自分を大事にするには「肯定」される必要があります。否定されると、あらゆることにやる気を失います。基本は子どもを肯定することが、周りの大人の責任です。肯定されると、誰もがどんどん

丁寧に目的・感情をきいてもらえると、



意欲的になります。行動を加速します。結果だけではなく、子どもの考え方、そのあり方全体までも、しっかりと肯定してあげてください。

失敗が9割でも、肯定されることで失敗から立ち直ります。親や大人にできることは、子どもをコントロールすることではなく、やる気を削がないことです。意欲的でさえあれば人生は長いので、成果を生み出す人になります。

マイナスの感情をぶつけても誰も幸せになる人はいません。家庭や学校の雰囲気、悪くするだけです。本人が大人へのあきらめを深めます。人は7割を自分の経験から学ぶと言われています。どんな経験も無駄にはなりません。大人が、けなしたり、否定さえしなければ、子どもが不登校から学ぶこともたくさんあります。

学校に行く、行かないに関わらず、人として子どものあり方をしっかりと肯定していく。子どもよりも、大人の方が一番大事かもしれません。あるがままを引き受ける勇気が大人にこそ必要です。

(つづく)

子どもを受け止める親のために(2)

特定非営利活動法人 寺子屋方丈舎 大関 勇氣

制度に合わない子どももいます

寺子屋方丈舎は、学校外の子どもたちの学びの場所として1999年に設立したフリースクールです。現在、7歳から21歳までの若者を受け入れています。

親の悩みで一番多いのは、不登校の子どもに、どう接したら良いかわからないということ。不登校の経験もなければ、学校に行くのが当たり前という価値観で生きてきた親にとって、学校に行かない子どもを受け入れることは大変です。2018年の日本財団の調査によれば、学校に行っていない子ども全体の1割は何らかの形で、違和感を感じながら登校しています。

学校のしくみに合わないからといって慌てることはありません。文科省も「不登校はどの子



にも起こりうる」といっているように、子育ての誤りではありません。不登校を5年で考えると、フリースクールに通わない子どもでも7割程度。フリースクールに通うなど社会とつながっている子どもであれば、8割以上が社会に出ています。

必要以上に、学校へ登校することだけにこだわりすぎると、心理的に本人を追い詰めることがあ